



京機短信

KEIKI short letter

京機短 No.348 2020.12.05

京機会(京都大学機械系同窓会) tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <http://www.keikikai.jp> 編集責任者 吉田英生

目次

- ・ 会長就任挨拶……野村 剛 (pp. 1-2)
- ・ 2021年度 京機会総会報告……事務局 (pp. 3-7)
- ・ series わたしの仕事 (24)三菱電機株式会社……宮脇皓亮 (pp. 8-10)
- ・ ベルギーでのCovid 19の状況報告……吉富 聡 (pp. 11-16)
- ・ **COFFEE BREAK @Zoom**のご案内……米田奈生、清水桜子 (pp. 17-18)

会長就任挨拶

野村 剛 (S51/1976卒)



2020年11月7日の京機会総会にて会長を拝命しました。歴代の会長が立派に果たして来られた、この役目が自分に務まるものかと心配する面もありますが、皆様のご指導とご支援があってこそ出来るものと考えますので、どうか宜しくお願い致します。

京機会は、本部や各支部において、毎年定期的に活発な活動、学生と企業との交流会などが行なわれ、最近では、高校への出前授業など社会貢献活動なども積極的に開催され、他の同窓会とは、異なった高いレベルにあり、これは、諸先輩や会員の皆さんが長年にわたって工夫と努力を重ねてこられた賜物であり、あらためて感謝申し上げます。

併せて、現役の先生方には、京機会の活動に積極的に参加頂き、御苦勞をして頂いていること、大変、ありがたく、お礼を申し上げたいと思います。

さて、私は、京機会 関西支部長を務めさせて頂き、日々、活動を行っている中で、いくつかの課題を感じています。一つは、原点である同窓会が各学年でや

られているのか？ 二つ目は、活動の参加者が、特定の人に限られていないか、現役世代や、若手世代が、参加しているか？ 三つ目は、会費を納める人が、減っていく中で、その活動の魅力が少ないのではないか？ あるいは、就職先が多岐にわたっていて、上下左右の会員同士の連携が少ないのではないか？ 四つ目は、大学の先生方の入れ替わりで、大学の研究活動がどうなっているのか、大学の先生方と現役世代との交流が少ないのではないか？ 五つ目は、会員と学生の交流が少ないのではないか？ と感じています。皆様方のご協力、ご支援を得て、これらの課題が、一つでも、解決できればと思います。

一方、2020年初めから始まった、コロナ禍の為に、同窓会活動は、今年は、ほとんどがリアルな活動はできなくなり、オンラインでの幹事会や、運営会議となり、Face To Faceでのコミュニケーションが取れなくなったことは、非常に残念で、今後の同窓会をどうしていくべきか、考える機会にもなってきました。一つ、良いことは、先生方の絶大な支援のもと、オンラインにしたことで、総会を含む会議に、例年を上回る会員が参加されたことです。リアルとリモートを組み合わせたハイブリッドな活動も選択肢の一つになるようにも思います。また、新年会などは、オンライン講演会や、オンライン個室の設定によるオンライン飲み会なども、手探りしながら、チャレンジするようになってきました。コロナが、ワクチンの開発など科学技術の進歩により、早期に収束することを願い、ポストコロナの時代にむけて、「災い転じて、福となす」ように、皆さんとともに、新たな時代の京機会活動ができたらと思います。

皆さん方の、更なるご支援、ご協力を、よろしく、お願いいたします。

2021年度 京機会総会報告

事務局

日時：2020年11月7日（土）14：00～15：45

会場：オンライン（Zoom）総会

<発信先：桂キャンパス>

出席者：157名（会員156名、事務局1名）



2021年度京機会総会は、コロナ禍の影響をうけ、参加者の安全も踏まえ、初のオンライン（Zoom）総会として11月7日（土）に開催いたしました。参加者は総勢157名でした。

総会は、西脇 眞二代表幹事（1986）の司会によって行われました。塩路 昌宏会長（1975）の挨拶で始まり、続いて、西脇幹事より教室の現状報告がなされました。そして、機械系教室の専攻長ならびに大学本部役員教員の紹介と、来年3月に定年退職予定の教員3名、そして本年10月に就任された第27代京大総長 湊 長博氏の紹介がありました。



その後、今年4月に、桂キャンパスBクラスターに「京都大学桂図書館」が開館し、桂地区5系（地球・建築・物理・電気・化学）図書室を集約するとともに、吉田地区の5系図書室、附属図書館からの一部資料も今後移転されとの紹介がありました。現在、吉田物理系図書室に保存され



ている機械系専攻学位論文も2020年度末には同図書館地下1階の書庫2に移転予定で「機械系専攻図書」は本図書館に集約される形になります。

また、コロナ禍における工学研究科としての京大付属病院への支援協力についての報告もありました。（詳細は京機短信No347に掲載）

続いて今年の新任教員・昇任教員10名の紹介と共に、総会参加の教員7名からの挨拶がありました。

2020年度の活動報告では、コロナ禍の影響で、春以降、本部の関連会議はメール会議と共にすべてオンライン（Zoom）開催で対応していること、各支部行事もほぼすべて開催中止となってしまったこと、学生会員への各種支援も休止してい

る等の報告がありました。ただ、このような中でも、今年2月の「学生と先輩との交流会」は、懇親会を中止するなどの安全面を考慮した対策を取りながら実施し、無事開催できたとの報告もされました。

続いて、平方 寛之会計幹事（1997）から2020年度決算報告があり、成宮 明氏（1973）による監査報告がおこなわれ、承認されました。

次の役員改選では、野村 剛氏（1976）が会長に推薦され承認されました。また副会長も承認され、引き続き、新役員が報告されました。（詳細は最後尾に掲載）

その後、野村新会長より就任のご挨拶をいただきました。

続いて、西脇幹事から2021年度の活動予定、平方幹事から2021年度の予算が紹介され、予算が承認されました。

支部報告では、関西、関東、中部、中国四国、九州の各支部長より、それぞれの特徴を生かした活動の報告が行われました。

関西支部では、野村 剛支部長（1976）より、異業種交流会、産学懇話会、若手会、京機カフェなどの取り組み、同窓会活動の試みと共に、支部総会・新年会や京機カフェ(大阪あそ歩《百舌鳥古墳群と堺散策》、ゴルフカフェ《企業対抗ゴルフ》、ミュージックカフェ《山本リンダショー》、吉本新喜劇観劇)などコロナ禍が深刻化する3月までに開催された行事報告も交えて紹介いただきました。



関東支部では、山本 謙支部長（1975）より、これまでの全行事が中止となったが、今年10月に感染対策を考えながら試験的に有志での「ゴルフ会」を開催し、来春は会員募集して再開予定しているとの報告がありました。また、写真同好会活動も現在は再開し参加者募集中であり、今年中止となった支部総会も来年4月にリアル開催もしくはオンラインで開催予定との紹介がありました。



中部支部は、伊勢 清貴支部長（1978）より、支部テーマが「ココロ動かす」から「広がれ！ゲンキ、ワクワク」と移ったこと、今年2月以降の支部企画がすべて中止となったとの報告と共に、来春開催の支部総会はWeb講演会に初トライし、「皆様に京都へ出かけた気持ちになっていただけるよう」にとの思いも込めて、京都在住の先生方の講演会を準備されているとの紹介がありました。

中国四国支部では、古屋 博章支部長（1982）より、昨秋に開催された「秋季行事」の報告と共に、今年5月の「春季行事」では工場見学や史跡見学の準備をしていたがコロナ禍で開催できず来春に順延予定とのこと、週明けには「秋季行事（Zoom開催・Web飲み会含）」の案内を配信予定との紹介がありました。

九州支部からは、千々木 亨支部長（1979）より、九州支部の特徴、高校への出前講義、また同出前講義も含む昨秋開催の社会貢献型「秋の行事」の紹介がありました。コロナ禍ではあるが、現在、Zoomを活用した高校へのオンライン出前講義&リモート工場見学を検討している旨、支部総会も年内にオンライン開催を予定している旨、紹介がありました。

東北の会については、西脇幹事より「現在は活動休止中」との報告がありました。

また、京機会活動に顕著なご貢献をいただいた会員に授与する「活動優秀賞」については、「本年度は表彰該当者なし」との報告がありました。

ご案内：21年度支部総会

日時：2021年4月17日(土) @Webを予定

21年度の支部総会にて、Web講演会に初トライします。遠方の会員の方もぜひ参加ください。

1) 京大変人講座：「あほなことせえ」
京都大学人間・環境学研究科教授 酒井 敏 様

2) 京都の凹凸を歩く：
「京都盆地北部でなにが起きたか？」
～京都大学キャンパスに定点を置いた、自然的・社会的「地形」の通史～
京都高低差崖会 崖長 梅林 秀行 様




3. 2020年度の活動計画

① 秋季行事（支部運営会議・交流会）

- ・日 時：2020年11月29日（日）18:00～（予定）
- ・場 所：自由（ZoomによるWeb会議）

コロナ禍の影響により、本部のZoomライセンスをお借りして Web方式での開催とします。支部運営会議では行事計画の審議・本部情報の伝達等を行い、交流会では「Web飲み会」を企画します。別途ご案内しますので、他支部からもぜひご参加いただきたいと思います。

② 春季行事（見学会・支部総会・異業種交流会・観光）

- ・日 時：2021年5月中旬（未定）
- ・場 所：山口県下関市（未定）

順延した企画を再計画中ですが、コロナ禍の状況によっては変更の可能性もあります。あらためてのご案内をお待ちください。



【関門海峡】

80

2020年度社会貢献型秋の行事・支部総会

（実施日 2019年11月30日、12月1日）

参加者 47名（会員19名、東筑高校28名）

- 福岡県立東筑高校での出前講義
「ウオレットの開発を通してみる商品開発の現場」 中村久志氏
「ア・ラ・ス・マ・カ・サ・カ・ルのあるべき道」 千々木亨氏
- 東筑高校生とのTOTOミュージアム合同見学
- 日本吟醸酒倶楽部での懇親会
- 重要文化財門司港駅 関門海峡ミュージアム見学



出前講義 ものづくり教養講座（定例社会貢献活動）

（実施日 2019年11月2日 at 福岡県立修猷館高校）

TOTO / 中村久志氏 「ウオレットの開発を通してみる商品開発の現場」

その後、改めて今後の本部行事案内があり、2021年「学生と先輩との交流会」は、安全面も配慮し、3月1日～3日の3日間に分けてのオンライン（Zoom）開催を決定し、現在、既に参加企業を募集中との紹介もありました。また、来年度の総会については、「今回のオンライン開催を喜んでくださっている会員の声も届いており、今後の状況をみる形にはなるが、来年も同時期（11月頃）にリアル開催とオンラインでのハイブリット開催が叶う企画にできるよう、次回にむけてこれから検討していきたい」との紹介がありました。

続く、質疑応答では、「学年同窓会等々へのZoom提供支援」についての質問が挙がり、西脇幹事より「現在、対応を試行錯誤しながら模索しており、安定運営が確認できた時点で、会員には正式に会員にご案内したい」との回答がなされました。

その後、予定の終了時刻となり、当初心配していた回線トラブルもなく、無事閉会となりました。

この度の総会は、初めての試みとなるオンライン開催でしたが、お忙しい中、多くの皆様にご出席にいただき無事終了することができました。ご協力ありがとうございました。

役 職	氏 名	卒業年次	所 属
【会長】	野村 剛◎	1976年	京都大学COI機構長、(元)パナソニック(株)常務取締役
【副会長】 教室側代表	北條 正樹	1979年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
関西支部	野村 剛◎	1976年	京都大学COI機構長、(元)パナソニック(株)常務取締役
関東支部	山本 謙◎	1975年	宇部興産(株)取締役会長
中部支部	伊勢 清貴◎	1978年	アイシン精機(株)取締役社長
中国・四国支部	古屋 博章◎	1982年	宇部興産機械(株)
九州支部	千々木 亨◎	1979年	西日本ペットボトルリサイクル(株)代表取締役社長
学生会	藤本 裕介	2020年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 修士1回生
【監事】	鴻野雄一郎◎ 成宮 明◎ 森 雅彦◎	1969年 1973年 1985年	(元)住友電気工業(株) (元)大阪ガス(株) DMG森精機(株)代表取締役社長
【代表幹事】	西脇 眞二	1986年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
【代表幹事】副幹事	鈴木 基史	1986年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
【会計担当】正幹事	平方 寛之	1997年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
【会計担当】副幹事	土屋 智由	1991年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
【常任幹事】			
地区代表幹事 (関西)	岡下 裕樹◎	1997年	大阪ガス(株)
〃 (関東)	岡部 基彦◎	1998年	東芝インフラシステムズ(株)
〃 (中部)	田中 直樹◎	1995年	(株)デンソー
〃 (中国・四国)	後藤 宏◎	1988年	宇部興産機械(株)
〃 (九州)	入船佳津一◎	1985年	TOTO(株)
大学側幹事 (機械系)	西脇 眞二	1986年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
大学側幹事 (情報)	大塚 敏之	1990年	京都大学 大学院 情報学研究科 システム科学専攻 教授
大学側幹事 (エネルギー)	川那辺 洋	1990年	京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻 教授
大学側幹事 (関西支部担当) 正幹事	川那辺 洋	1990年	京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻 教授
〃 (関西支部担当) 副幹事	横川 隆司	2000年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
〃 (関東支部担当) 正幹事	蓮尾 昌裕	1986年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (関東支部担当) 副幹事(工場見学担当)	平方 寛之	1997年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (中部支部担当) 正幹事	西脇 眞二	1986年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (中部支部担当) 副幹事(工場見学担当)	黒瀬 良一	1993年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (中国・四国支部担当) 正幹事	安達 泰治	1990年	京都大学 ウィルス・再生医科学研究所 教授
〃 (中国・四国支部担当) 副幹事	花崎 秀史	1984年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (九州支部担当) 正幹事	黒瀬 良一	1993年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (九州支部担当) 副幹事	河野 大輔	2005年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 准教授
〃 (名簿担当) 正幹事	岩井 裕	1993年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (名簿担当) 副幹事	四竈 泰一	2002年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 准教授
〃 (ニュース担当) 正幹事	黒瀬 良一	1993年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (ニュース担当) 副幹事	横川 隆司	2000年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
〃 (通信・情報・セキュリティ担当) 正幹事	井上 康博	1998年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
〃 (通信・情報・セキュリティ担当) 副幹事	岩井 裕	1993年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (学生会担当) 正幹事	平山 朋子	1997年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 教授
〃 (学生会担当) 副幹事	土屋 智由	1991年	京都大学 大学院 工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 教授
学生会幹事	西村 浩人	2020年	京都大学 大学院 工学研究科 機械理工学専攻 修士1回生
【顧問】	久保 愛三◎ 藤川 卓爾◎ 松久 寛◎ 塩路 昌宏◎	1966年 1967年 1670年 1975年	京都大学名誉教授 (元)三菱重工業(株) 京都大学名誉教授 京都大学名誉教授
【運営委員会】	松原 厚<委員長>、松久 寛、仲田 摩智(1979年)、山本 謙、伊勢 清貴、古屋 博章、千々木 亨、吉田 英生(1978年)、榎木 哲夫(1981年)、鈴木 基史、西脇 眞二、平方 寛之		
【事務局】	段 智子、山口 美賀◎(2003年)		
【工学系同窓会連絡会】	成宮 明◎(1973年)、蓮尾 昌裕		

◎は2021年度新任

わたしの仕事 (24) 三菱電機株式会社

宮脇皓亮 (H23/2011卒)



1. はじめに

私は三菱電機に入社してから7年間、研究所で勤務しており、学生時代を含めると研究活動は10年になる。また、来年度より社会人ドクターとして、企業の実用的な研究と大学の学問的な研究の両輪で活動する運びとなった。

そんな折に、大学の恩師より「わたしの仕事」として寄稿のお話をいただいた。そこで、本稿には私自身が経験した研究活動の楽しさや強みを書き記した。特にこれから研究活動や就職活動を開始する学生のみなさまの一助、刺激となれば幸甚である。

2. 大学と企業におけるわたしの研究活動

① 大学で学んだ研究の楽しさ

学生時代には、大学の研究室に加えて海外インターンで研究活動の楽しさを実感した。熱工学研究室(吉田研)では燃料電池、オーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)では太陽熱発電と、主に創エネ技術を研究した。私は素晴らしい先生方と仲間のおかげで研究を楽しむことができた。大学では当時イギリスへ留学中の岸本先生と、ビデオ通話で何度も議論したことを覚えている。また、約1年



海外インターン時代の写真 (左 : CSIROにて、右 : Beer Festivalにて)

の海外インターンでは、「よく遊び、よく学べ」の精神のもと、共に研究する仲間とビーチバレーや地元の祭りに参加して交流を深めた。様々な経験を積み重ねながら研究を加速し、先生方のご支援をいただきながら論文を海外ジャーナルに投稿した。そのときの達成感や、インターン先の仲間と帰国後も交流を深めた経験から、研究者としてのキャリアを選択することにした。

②企業で実感した研究職の強み

企業の活動では、さまざまな視点で研究職の強みを実感している。就職先の三菱電機では、省エネ技術に携わり空調機の開発を進めている。私が考える研究職の強みは、自分の実績を社内だけでなく、社外にアピールできることである。企業の研究者は、自分の研究成果を論文として社外にアピールすることに加えて、ノウハウでない限り、特許として権利化、明文化する。これら成果は自身の経歴として履歴書に記載することも可能であるため、さまざまなキャリアステップの場面で役立つ。履歴書を更新して自分の実力を見える化することも楽しみの一つである。

履歴書の成果欄の一部を抜粋

そのほかにも、企業の研究職は、学術分野からモノづくりの最前線まで横断的に仕事をすることができる。開発を俯瞰的にとらえて進める能力によって特定の

RESEARCH EXPERIENCE	Graduate student, Kyoto University Investigated performances of Solid Oxide Fuel Cell and proposed comprehensive descriptions with structural and operational parameters
PUBLICATIONS Papers	Under Graduate student, Kyoto University Experimentally evaluated performances of Solid Oxide Fuel Cell with different microstructures.
PUBLICATIONS Papers	K.Miyawaki, Y.Onaka, "Phase Separation Characteristics through Vertical Y Junction preceded by Elbow Tube" <i>ICMFHT' 20</i> , Lisbon, 2020 (postponed to October 14)
PUBLICATIONS Papers	K.Miyawaki, Y.Onaka, "Two Phase Refrigerant Flow through Vertical Y Junction preceded by Elbow Tube" in <i>Thermal Eng. Conf.</i> , Toyama, 2018
PUBLICATIONS Papers	K.Miyawaki, M.Kishimoto, H.Iwai, H.Yoshida, M.Saito, "Comprehensive understanding of the active thickness in solid oxide fuel cell anodes using experimental, numerical and semi-analytical approach" <i>J. Power Sources</i> 267 (2014) 503-514
PUBLICATIONS Papers	G.Brus, K.Miyawaki, H.Iwai, M.Saito, H.Yoshida, <i>Solid State Ionics</i> 265 (2014) 13-21
PUBLICATIONS Papers	M. Kishimoto, K.Miyawaki, H.Iwai, M.Saito, H.Yoshida, <i>The 10th European SOFC Forum</i> , 13 (4) (2012) 476-486
PUBLICATIONS Papers	M. Kishimoto, H.Iwai, K.Miyawaki, M.Saito, H.Yoshida, <i>J. Power Sources</i> 223 (2013) 268-276
Patents	K.Miyawaki, Y.Onaka, Y.Kato, "HEAT EXCHANGER AND AIR CONDITIONER" WO2020039513
Patents	K.Miyawaki, Y.Onaka, O.Morimoto, H.Okano, T.Koike, H.Maruyama, "REFRIGERATION DISTRIBUTOR AND AIR-CONDITIONING DEVICE" WO2019058540
Patents	K.Miyawaki, Y.Onaka, O.Morimoto, H.Okano, T.Koike, H.Maruyama, "REFRIGERATION CYCLE APPARATUS" WO2018173255
Patents	K.Miyawaki, T.Hori, N.Yoneda, S.Yoshimura, Y.Onaka, T.Matsumoto, R.Akaiwa, Y.Yoshida, K.Miya, "HEAT EXCHANGER AND AIR-CONDITIONING APPARATUS" WO2017010120
Patents	Y. Onaka, T.Matsumoto, K.Miyawaki, O.Morimoto H.Okano, T.Koike, WO2018047511
Patents	Y. Onaka, T.Matsumoto, K.Miyawaki, H.Okano, T.Koike, T.Hatamura, O.Morimoto, WO2018047332
Patents	S.Yoshimura, Y.Yoshida, K.Miya, K.Miyawaki, N.Yoneda, T.Hori, WO2018139162
Page2 - curriculum vitae of Kosuke Miyawaki	

学士・修士 の研究

論文など 出版物

公開済み 特許

技術開発の分野だけでなく、さまざまな業界で活躍する力が身につくと考えている。

3. 学生のみなさまへ

研究活動にご興味を持たれた方は、研究室や職場を以下の視点で選んでみてはいかがでしょうか。

- * 研究仲間と仕事だけでなく余暇を楽しめそうか
- * 担当教授や上司は自分の挑戦を支援してくれるか
- * 先輩方は社会的な実績をアピールできているか

ただし、研究活動を全員に勧めるものではない。例えば先生や上司の指示を仰いで進める作業が得意な方には、新しい知識を自ら学び、コンセプトを創る研究活動を苦痛に感じるかもしれない。ぜひご自分の適性を見定めて進学、就職を考えていただきたい。

私が三菱電機を就職先に選んだ理由として、研究チームのメンバーと話しをして、楽しくなりそうだと感じた事^{*}と、特許出願件数が世界的にも多いことがある。昨今は企業のインターン制度も充実しているので、一度興味のある研修を受けてみてはいかがでしょうか。

※弊社の配属先指定リクルート制度を活用

4. おわりに

本稿は、研究業務に対する本音を若手研究者目線で、大学時代と社会人時代の活動を交えて紹介した。昨今の複雑な情勢の中、学生の方々の進学先や就職先選びの基準は以前よりも多様化しており、困惑されている方も多いと思うが、考え方の一つとして参考になれば幸いである。

最後になりましたが、熱工学研究室 吉田先生、齋藤先生と先端イメージング工学研究室 岩井先生、岸本先生へ、本寄稿の機会を与えていただいたこと、学生時代のご指導や留学のご支援、さらに博士進学にあたりご助言いただいたことを、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

ベルギーでのCovid 19の状況報告

吉富 聡

(H15/2003卒)



はじめに自己紹介

私は学部・修士ともに吉田英生先生の研究室に在籍し、現在 Procter and Gambleにてエンジニアリング業務をしております。(以前「わたしの仕事」でも寄稿させていただきました。) 世界中でCovid 19による大きな生活様式の変化の中、まもなく一年近くが経過しようとしています。世界の地域で異なる状況が見てとれます。私は昨年8月からベルギーのブリュッセルの研究所に勤務していますので、これを機にヨーロッパでのCovid 19に関わる状況をここでお伝えしようと思います。京機会会員の皆様におかれましては、海外で生活されている方で今回のCovid 19の件で色々なご意見をお持ちだと思いますが、ヨーロッパ在住の観点で今回のパンデミックの状況をなるべく客観的にお伝えできればと思います。



ベルギーでの感染状況

私の住んでいるブリュッセルはベルギーの首都ではありませんが、人口110万人ほどの中規模の都市です。ベルギー全体の人口は1150万人ほどで 東京都の人口1400万人よりも少なくヨーロッパでも比較的小さな国です。あまり報道されることはないと思いますが、人口が東京都よりも少ないこのベルギーで、実はかなりのCovid 19の感染拡大が確認されています。

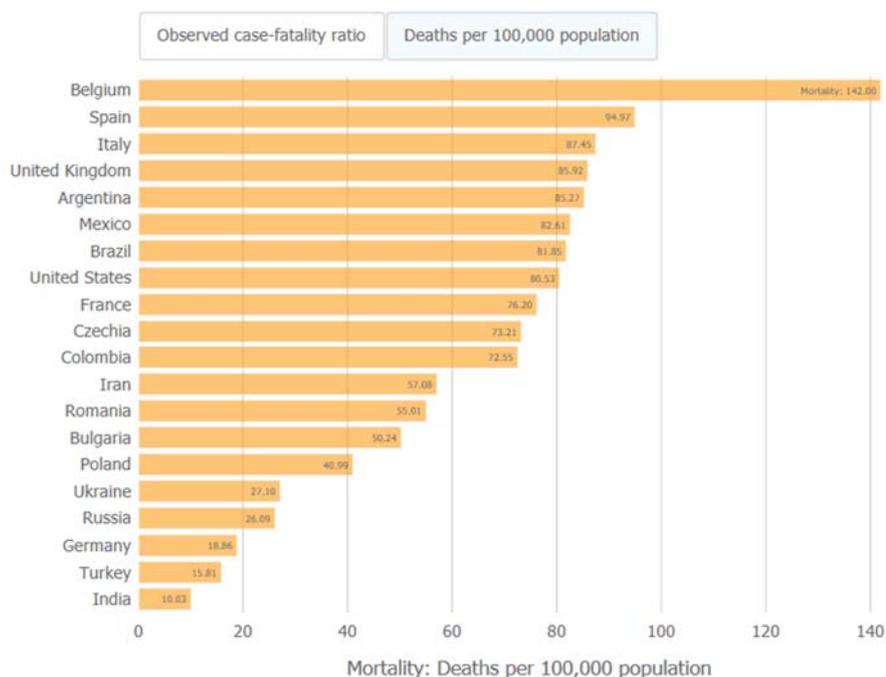
11月28日現在、ベルギーにおけるここ1週間の感染者数の平均は一日あたり約2500人です。これは第2波のピークを1か月ほど前に過ぎた値であり、その時のピ

一旬は実に約20000人/日でありました。11月28日現在日本では2500人ほどの新規感染者が一日当たり確認されていますので、人口当たりの感染者で比較すると、ピークを過ぎたベルギーの新規感染者数ですら、日本のそれに比べて実に10倍以上の数字です。実際ピーク時には病床が逼迫しており、ベルギー国内で対応できず、近隣諸国などに患者を移送してました。



[<https://www.sciensano.be/en>]

また、死亡率を検証すると、Covid 19によるベルギーにおける人口当たりの死亡率は世界一位となり、10万人当たり140人以上がなくなっています。これは日本の1.58という数字と比べても100倍近い数字となっています。これに関してはベルギー当局からも理由の説明があり、疑わしき死亡例はすべてCovid 19関係で計上している所以他国に比べて高い数字を出しているとのことでした。実際、例年の同時期に比べての超過死亡数は、ベルギー当局が発表しているCovid 19での死亡数と辻褃が合っており、他国に比べてより現実に近い数字を表しているとのことでした。いずれにしても、日本に比べて次元の違う状況であることは間違いありません。



[<https://coronavirus.jhu.edu/data/mortality>]

ベルギーでの生活の制限に関して

このような厳しい感染拡大の状況で、現在ベルギーは2回目のロックダウンを迎えています。第一波の時は2か月以上にわたりロックダウンが行われ、現在の第2波におけるロックダウンは、制限こそ緩和されたもののすでに1か月以上にわたり、おそらくあと数週間は続くとの見方が出ています。第一波のロックダウンでの状況は

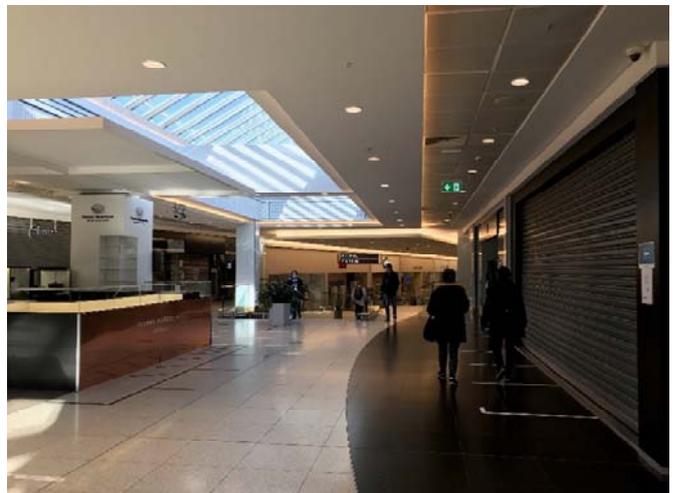
- 在宅勤務が行える業務であれば在宅勤務が義務
- 必要不可欠ではない店舗は閉鎖
- 必要な買い物はできるが店舗の入場人数の制限と時間制限
- レストラン・バー・カフェは閉鎖
- 美容院・理容院は閉店
- スポーツ施設は閉鎖
- 人々が集合するイベントはキャンセル
- 教育機関・学校は閉鎖
- 必要不可欠な移動以外は禁止
- プライベートの用事で家族以外の人と会うことは禁止
- 外出時はマスク着用義務
- 葬式も出席はごく近親者に限られる



[市内でのマスク着用義務を示す看板がいたるところに]



[ショッピングセンターのチーズ専門店は Essential businessとして開店が許されている。そこに Social Distanceをたもち列をなす人]



[ロックダウン時のショッピングセンター Essential Business以外は閉鎖]

かなり生活を制限される内容でした。ここまできると逆に自由に何ができるかというになります。悲しいことに家の近くの範囲でジョギング・サイクリングができることぐらいでした。ここで重要なポイントは、これが法律で定められ、違反した場合は罰金が科されるということです。この点においては、日本に比べると管理が厳しいものであったと感じます。なぜここまで厳しくするあるいはルールを明文化・細分化するかということの理由は後で述べます。

市中での肌感覚

ここまでのところ、かなり厳しい感染状況と厳しいロックダウンの状況を理解していただけたかと思いますが、なぜ日本に比べてこれほどまでに違う状況なのかということが疑問にあがります。ここから述べることは私個人の感覚と観察であり、必ずしもデータに基づくものではないことをご理解いただいたうえで読んでいただければと思います。

実際そこまで状況は悪いのかと問われたら、そこまで深刻には感じることはできないというのが正直なところ。実際に職場での報告では、従業員で感染した事例や家族に感染者が出たのでしばらく自宅勤務をするという事例がありました。そういった事例は数えるほどでした。私の周辺の間人関係では、比較的年齢が低いこととテレワークが可能な勤務体系がこういった印象を持たせる一因かもしれません。また、そもそもロックダウン中においては、人との接点が希薄になりますので、病院での状況、各種経済活動の停滞などは、ネットを通しての情報しかなく、自分自身の経験としてあるいは身近な人からの情報ではないので、どこか遠いところでの話としか感じないのかもしれない。

では、感染者数をはるかに多いことに何か特別な理由があるのかということについてはどうでしょうか。ベルギーはCovid 19の初期感染と拡大に関してヨーロッパのハチの巣と言われています。なぜ同じヨーロッパでも近隣諸国に比べて状況が悪いかが議論されており、とある感染症学者の発言がニュースでも取り上げられていました。それによると、

- 1) 地理的なヨーロッパの中心であること、
- 2) 陸続きの移動が比較的簡単にできること、
- 3) 政治のヨーロッパの中心であり出入りが多いこと、
- 4) 狭い国土で比較的都市部に人口がかたまり人口密度が高いこと

が理由として考えられるとのことでした。この説明はヨーロッパにおけるベルギーの感染拡大の理由にはあげられるかもしれませんが、日本との比較の説明には十分ではなく、むしろいくつかの理由は日本のほうがより状況として厳しく、ベルギーの状況の悪さを説明できるものではありません。

議論としては、ヨーロッパはハグやキスをする習慣があるということが感染拡大の理由として聞くことはありますが、それが主な理由とは私は思えません。確かに日本に比べるとそういった習慣があるとは思いますが、現在は明らかに人々はそのような行動は控えています。市中でそのような光景を見た覚えはしばらくなく、マスクに関してもかなりの遵守率だと思います。

では一体何が違いを生むのか。ここからは少し踏み込んでかなり推測になることをお断りしますが、おそらく見えるところ見えないところの違いなのかと思います。先述のとおり法律でかなり規制が厳しく罰金すら発生する制限の中、人々はそのルールを表向きには守っているように“見える”。しかし、見えてこないところではやはりルールはルールでしかなく、マスクなどは習慣ではないがゆえに見えてこないところでそれを守らない人も出てくるでしょう。それがおそらく日本に比べると多いのではないかと思います。法律にして縛ろうとしていることがそれを裏付けている気がします。そうでもしない限り人々はやはり個人の自由を重んじるがゆえに個人の理念に基づく行動をとります。一例として、ロックダウンの法律が実施される直前夜にロックダウンイブパーティーなるものが各所で見受けられ、当局はそういった行動を自粛するよう要請していましたが、これもやはり法律で縛らない限り個人の意識に任せることによりかなり限界があることを示す良い例かと思います。そして、ロックダウン実施された後も、おそらく（重ねて言いますがおそらく）監視の届かないところでのルールの逸脱は発生していると思われる。実際何度かニュースで逮捕事例や罰金事例が報道されましたが、当局もすべてを取り締まることなどできるはずもなく、そういった事例は氷山の一角に過ぎないと思われる。もちろん日本とヨーロッパの感染状況の違いは、単純に一つの要因で決まるわけではなく、数多くの複合要因によるものだと思います。今後どのような研究がなされこの違いを説明することができるのか気になるところです。

以上、あくまでも私の感覚、観察からの状況分析となり、必ずしもデータに基づいているわけではないことを再度お断りし、一個人の生の感想としてとらえて

いただければと思います。海外生活という経験を通し、Covid 19の状況でなくても色々と感じること思うことがありましたが、この特殊な状況の中、通常以上に母国と海外の文化の違いに考えを巡らせることが多くなりました。それは文化の違いであり、良し悪しではなく（もちろん個人にとっては良し悪しもあるでしょうけど）、その多様性の中からの客観性のある物事の見方の重要性などを感じながら、引き続きベルギーで生活を続けていこうと思います。

COFFEE BREAK @Zoomのご案内

米田奈生 (H29/2017卒、蓮尾研 D2)

清水桜子 (H30/2018卒、榎木研 D1)

C3 COFFEE BREAK ★★
December

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px; background-color: #1a2b4d; color: white;"> <p style="text-align: center;">🌟 Christmas Event 🌟</p> <p style="text-align: center;">2020年の最後に何か楽しめるもの をと思いミニゲーム会を企画しています クリスマス会・忘年会代わりに 卒論・修論のリフレッシュに ワイワイやりましょう！</p> </div>				18	19
20					25	26
27						

15:00-16:00
@Zoom

: 開催日

パンデミックで生活が大きく変わり、長く感じられてきた今年もいよいよ12月です。桂C3棟の **COFFEE BREAK** は相変わらず、毎週金曜日の15時～16時にZoomにて開催しています。

12月と言えばクリスマス！ということで、今月のカレンダーには教員のFさんに提供いただいたドイツのクリスマスマーケットの写真を掲載しています。2018年～2019年の1年間ドイツに滞在されていた間に撮影したものだそうです。今年は現地でも開催されず、渡航できたとしてもこの光景は見られないそう……。いつものコーヒーマークもグリューワイン（Glühwein）をイメージして赤くしてみました。

さて、12月は、4週目の金曜日がちょうど25日にあたったこともあり、ミニゲーム会を企画しています。（＝アイデア募集中でもあるので、やりたいことがある方はぜひご連絡ください！）執筆などの息抜きに遊んでみましょう！

11月のJamboardは、
秋空からクリスマスへ。
Zoom空間も和気あいあ
いとしていました。



COFFEE BREAKでは、引き続き、学生・教職員・卒業生の参加をお待ちしています。(コーヒーとお菓子は各自ご準備のほど……。)また、Googleカレンダーを用いた開催スケジュールの共有と、開催のリマインドメールの配信を行っています。希望する人は、coffeebreak.kyotouniv@gmail.com または [こちらのフォー](https://bit.ly/2A6sC6X)
[ム\(https://bit.ly/2A6sC6X\)](https://bit.ly/2A6sC6X) からどうぞ!

